

---

【上海レポート20220406】

大阪産業局上海代表処/大阪府上海事務所 所長 南浦秀史

---

## 【上海市における封鎖状況2】

私が住む西部地域は、4月1日～5日まで封鎖の予定でしたが、解除はされず、現在も封鎖が続いています。上海では、連日、過去最高の感染者が発生していると報道されているようですが、当然と言えば当然で、2600万人の住民を家から出さず、一斉に検査をしていますので、無症状感染者を含め氷山の下まで明らかになっていきます。

検査は、初日の4月1日にマンションの中庭に設けられた検査所に行つての核酸検査（＝PCR検査）、3日はボランティアの方が各戸に検査キットを配布しての抗原検査、そして4日に再度、核酸検査が実施されました。西部では一斉にこのスケジュールで実施されていますが、陽性者が発生した小区に住む知人の話では、3日・4日の検査はなかったそうです。

食料はこの間、一度配給がありました。私のところには、鶏肉1キロ、太刀魚800グラム、キャベツ1玉、玉ねぎ4個、にんじん2本、じゃがいも4個です。世帯ごとに配布されていますが、人数は関係なさそうです。そろそろ封鎖前に購入していた生野菜がなくなるので、大変ありがたく、太刀魚以外をカレーにして当面の晩御飯にしようと思っています。

この封鎖でも威力を発揮しているのは、携帯電話（スマホ）です。まず、検査では「健康雲」というアプリを使います。パスポート番号、氏名、電話番号、住所、勤務先などを登録して発行されたQRコードを見せると、係りが読み取つてビッグデータに登録されます。検査結果も携帯電話で数時間後に見ることができます。

情報伝達は、Wechat（微信）アプリが主です。各機関が作成している微信公式アカウントをフォローすることで、発表された情報がタイムリーに入ってきます。市当局は、封鎖に関する通知や、市内で発生した陽性者情報や無症状感染者が発生した小区の情報などを毎日発信しています。通知は、日系企業向けサービスを提供している現地企業や法律事務所がすぐに翻訳文を提供してくれているので、正確に情報を把握することができます。微信そのものがコミュニケーションのためのアプリですので、それらの情報はすぐに友人・知人の間で共有されています。

過去の「上海レポート」、「中国(上海)ビジネスサポート」

[https://www.obda.or.jp/jigybo/ibo/overseas\\_shanghai.html](https://www.obda.or.jp/jigybo/ibo/overseas_shanghai.html)

発行・問合せ：(公財)大阪産業局上海代表処(大阪府上海事務所)

URL: <http://osaka-sh.com.cn/> E-mail: [osaka@ibo-sh.com](mailto:osaka@ibo-sh.com)